

TASC ギふコラボ展 vol.11

こたえのない学校

ZINE

2026

1/31 (土) - 2/23 (月・祝)

9:00~17:00

ぎふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー **入場無料**

様々な興味は地続きで
福祉につながっている。

中部学院大学の学生が、自分の興味のあるテーマを考え、
関特別支援学校との交流や
同世代の障がいのある当事者のお話を聞く機会から、
自分のフィルターを通して感じたことを、
様々な方法で表現し、制作したZINEを展示します。



ZINE (ジン) とは
「magazine (雑誌)」や「fanzine (ファンジン)」を語源とし、
個人または少人数のグループが制作・発行する自主制作の出版物のことです。



水野友有

中部学院大学
人間福祉学部
人間福祉学科 教授

同世代の
表現者から
お話を聞く



國光トモマサ

写真家／佛教大学4年生

なぜ、ZINEを作るに至ったか。

ふくしはおとく

これから学問をはじめようとする大学生に、私は「福祉を学ぶことはとてもお得だと思う」と話すことがある。

福祉というと、「人を支える仕事をめざす人が資格取得のために学ぶもの」というイメージが強く、福祉職に就く人のための学問だと思われがちである。

しかし実際の福祉は、もっと広くて、もっと身近な学問だ。人はどこから来て、どのような環境で育ち、どんなふうに生き、そしてどのように人生を終えていくのか。そうした根源的な問いを起点に、人間の存在そのものや、その人なりの幸い(Well-being)とは何かを問い続ける学問である。

過去の自分を救い、未来の自分を支える

そして何よりも、ホモ・サピエンスとして避けることのできない「他者と生きる」という営みを、体験的に学ぶことでもある。その営みは、人が誕生する前から亡くなった後まで、人生のあらゆる局面に及んでいる。他者との関わりには、喜びだけでなく、痛みや迷い、葛藤、息苦しさも伴う。そうした関係を見つめ直し、なぜ苦しかったのかを問い直すことは、過去の自分にいったん言葉を与え、現在の自分の輪郭が立ち上がり、その先に、これから他者と生きぬくためのヒントが見つかることがある。

「明日も生きてみよう」と思えること

今回の ZINE 制作の実践も、その延長線上にある。大学生たちは、自分の興味あるテーマから出発し、特別支援学校での交流や当事者による語りに触れることで、「自分ごととしての福祉」に気づき始めたようだった。一見バラバラに見える関心が、実は福祉につながっていることを体感的に理解した大学生たちの視点が、ZINE という小さな表現となっている。

大学生とともに学ぶ中で、福祉とは、どんなふうに生まれてきても、どんなふうに生きていても、「明日も生きてみようと思える何か」なのではないかと感じるようになった。

福祉という学問に蓄えられてきた、人と生きることの複雑さに向き合い続けるための視点や言葉は、彼らの背中をそっと押してくれているように思える。

最後に、私の写真について触れておきたい。これは、國光さんとの対話会の際に、誤ってコーヒーをこぼして茶色に染まった白いシャツを、上着で隠しきれていない一枚である。差し替えも考えたが、あえてそのままにした。人間として不完全でありながら、大学教員として何とか生きている—その姿もまた、私にとっての福祉そのものだと感じたからだ。

やはり、福祉を学ぶのはお得だ。

自分のフィルターを通して表現する。

自身について

自閉症スペクトラム障害があり、学校で同世代とのなじみ方が分からず、小学5年生から引きこもりとなった。15歳の誕生日にカメラを手に入れ、それ以来、風景など写真を撮り続けている。その中で「鵜飼」に出会い、それに関わる人との交流を通して、社会性を学んだ。

障がいや自覚し、正しく特性を理解した上で、人との接し方などの対処法を自分なりに見つけ、生活面での苦労や困り感は現在感じていない。しかし、その対処法は他の人には当てはまらないこともあるだろう。

同世代の学生として

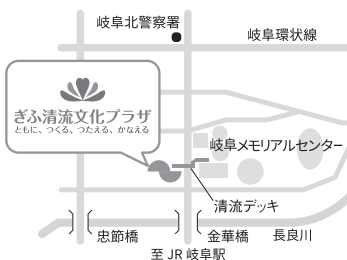
「鵜飼」を取り続ける中で、知識や経験を自分の中で留めておくのは惜しいと思い、それをきっかけに、大学で民俗学を専攻し、現在卒業論文を書き始めている。一面的な要素や特性だけで他人に決められるのではなく、自分の興味のあることや好きなことをすることは大事だと思う。

表現者として

この景色を残しておきたいと思った時(歴史的価値のためと自分の心が動いた時)に、シャッターを切る。被写体に対する関心や愛情がなければ、いい写真は撮れないと思っている。

作品展のお問い合わせ

TASCぎふ(岐阜県障がい者芸術文化支援センター)
〒502-0841 岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F
(公財)岐阜県教育文化財団 内
TEL 058-233-5377
FAX 058-233-5811
<https://www.tascgifu.com/>
✉ tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp



■**駐車場のご案内** ぎふ清流文化プラザ(133台)
駐車料金20分まで無料
3時間まで100円 以降30分ごとに100円(上限1,000円/日)
夜間の留め置きはできません。
障害者手帳をお持ちの方は、駐車料金の減免があります。
※駐車場には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

■**公共交通機関のご案内** 岐阜バス
JR岐阜駅10番のりばから約15分
K50 長良八代公園前行 / K55 栗野西5丁目行 / K49 城田寺団地行
「メモリアル正門前」バス停下車徒歩1分

会場サポート どなたでも気軽にご利用いただけるようサポートします。



総合案内、スロープ有り、オストメイト対応トイレ、多目的トイレ、点字誘導ブロック、補助犬受入可能、障がい者駐車場、車いす貸出、筆談対応

